

家事場のパパチカラ

(平成26年度「男女共同参画週間」キャッチフレーズ)

第1部 基調講演

はじめの一步! カタカナ語から学ぶ 身近な経営学



講師
三重野 徹
(みえの とおる) さん
[東日本国際大学
経済情報学部
経済情報学科長教授]



私たちの日常生活は多くの企業に支えられています。私たちは身近な企業の製品・サービスを利用しています。様々な物やサービスがあふれている時代においては、多品種少量生産が必要となり、海外進出している企業(グローバル)がその土地の消費者の好み(ローカル)に合う商品を作り、販売しています。

また、従来の日本型企业(年功序列、終身雇用、社員教育、忠誠心)の在り方が変化し、日本型経営が崩壊しつつあります。働く側は、自分

の価値観や職業意識を明確にして、その意欲と能力を生かした働き方、生き方を設計できる能力が求められているのです。

そして、企業の集団主義とは別の穏やかな個人主義が台頭してきています。4つのライフ(仕事生活・社会生活・家族生活・個人生活)が調和するWLBが大切です。企業側にはダイバーシティやWLBを考慮し、自己実現を満たし、個人生活を豊かにすることが求められています。

第2部 市民活動報告

男女共同参画に関する 各団体の市民活動



大関 澄子
(おおせき すみこ) さん
[国際女性教育振興会いわき]



ジンモーウェイ
(じんもーうゑい) さん
[東日本国際大学
経済情報学部2年]
[ミャンマー出身]



【海外視察研修報告】 主体的な生き方をめざす国 オランダに学ぶ

大関さん

オランダは国土の27%が海拔0m以下で、水との戦いを強いられています。「世界は神が創ったが、オランダはオランダ人が創った」と言われるほど、オランダ人は意志が強いです。環境に対する意識も高く、全長32kmの大堤防を自分たちの手で作り上げるような粘り強さを持っています。困難に挑戦する強い意志・努力は学ぶところが多いです。また、官・学・民の連携が農業技術を飛躍的に進化させ、IT技術を駆使した農業「スマートアグリ」を推進し、農業で世界第2位の輸出国に発展しました。ゴミやエネルギーの問題については、ゴミの分別を徹底し、生ゴミはバイオ技術で再利用しています。また、廃棄物発電所の設置や風力発電を推進し、CO₂排出量は欧州で最少です。

オランダでは、「合意と形成」といって、議論で物事を決定する風土があり、男女が平等に議論しています。女性が社会進出していますますます強くなってきていると感じました。



ミャンマーってどんな国・・・?

ジンモーウェイさん

私は4年前から留学生としていわきに来ています。今日はミャンマーの民族衣装を身につけてきました。故郷ミャンマーを映像でご紹介します。面積は日本の1.8倍あり、首都はネービードー、最大の都市はヤンゴンです。135の少数民族からなり、最多はビルマ族です。宗教は仏教が9割を占め、お寺が多数あります。イギリスの統治下にあったため、街にはその面影が残っています。主食は日本と同じで米飯です。ミャンマーをもっと身近に考えてもらえたら嬉しいです。

日本と違うところは、ミャンマーでは、家族共通の苗字はありません。また、ミャンマーには女性が立ち入れない場所があったり、入学試験や職業選択の際に女性が不利だったりします。日本はミャンマーに比べて男女差別が少ないのが良いと思います。

